

# コロナによって途絶えつつある伝統文化を復興させていくためにはどのような取り組みが必要か

5610A班

## 序論

### 目的

仮説: 伝統文化がコロナによって途絶えつつあるが限られた規模の祭りでも人々を満足させることができるのではないかと。

#### 〈みなと祭りを調査する理由〉

- ・気仙沼の代表的伝統文化である、みなと祭りを調査することでコロナ禍におかれた気仙沼の祭りの現状を考える。
- ・コロナウイルスの影響で二年もの間、開催されず、アンケートの結果「楽しみにしている」等という声が多かったため。

## 背景

気仙沼には地域住民の **高齢化や人口減少** により存続が難しくなっていた伝統文化が多くあったが、今回のコロナウイルスがそれに拍車をかけた。その結果伝統文化が消えつつあったり、活気がなくなりつつあるので、この問題に取り組む。

検証方法: アンケートを用いて調べる。

## 本文

### アンケート結果を受けて...

ほとんどの生徒がオンラインみなと祭りに参加しておらず、参加した生徒もあまり満足していない。また、コロナ前のみなと祭りには多くの生徒が満足していることがわかった。

コロナ禍でもできて、人々が満足する開催の仕方が必要

例

- ・踊りでグループの中での間隔を空けつつ、グループ毎に交代制にする。
  - ・間隔を空けての演奏、屋台の設置、参加人数を分散させるために分割して祭りを開催する
  - ・**子供が伝統文化に触れられるような企画を考え、開催するなど**
- これらを踏まえ仮説を再設定

コロナ禍でもできる対面の開催とオンラインの開催を組み合わせることで人々を満足させることができるのではないかと。

## 結論・まとめ

- ・地域の子供に学校の行事などで伝統文化を体験してもらうことで、楽しみや歴史を知ってもらい文化の継承を担ってもらう。
- ・リモートでの開催を平行して行い、来場人数を減らし従来通りの形で開催する。  
～リモートで開催するためには～
- ・アクセスしやすくする
- ・存在を知ってもらう
- ・幅広い年齢層に楽しんでもらうために内容や構成を工夫する。
- ・見たい場面を簡単に探せるように **チャプターを用意する**等の点を改善していく必要がある。

## アンケート結果

昨年のオンライン気仙沼みなと祭りにリアルタイムで参加しましたか？



■ はい ■ いいえ

### 参加したくないと思った理由

- ・コンテンツが面白くなかった
- ・迫力が伝わってこなかった
- ・内容が子供向けではなかった
- ・盛り上がる時間帯がわからなかった
- ・チャプターが用意されていなかった
- ・アクセスしづらいなど

コロナ禍以前の気仙沼みなと祭りに満足しているか ⇒ 多くの生徒が「はい」と回答。

## 今後の展望

- ・リモート開催に伴う必要経費や技術者等の人件費をどこから賄うか
- ・来場者の抽選方法
- ・リモートに対応する機器をお持ちでない方や機器を扱えない方でも参加できる方法の考案
- ・同時開催による本部の負担を軽減させる方法

## 参考文献・ご協力いただいた方々

- ・気仙沼市役所産業部観光課  
i様 S様
- ・宮城教育大学  
y様

## アンケート結果

昨年のオンライン気仙沼みなと祭りに  
リアルタイムで参加しましたか？



■ はい ■ いいえ

オンラインみなと祭りに参加  
したくないと思った理由

